



“好き”がふえたよ

校長 渡邊 正博

◆楽しいときは・・・

『みなさんも、楽しいことをしているときは時間がたつのが速く、たいくつなときはおそく感じたという経験があるでしょう。』 (「時計の時間と心の時間」 一川 誠)

これは、小学6年生国語の教科書(光村図書)からの一節です。以前、子どもたちと「そうだよね〜。」「わかる〜。」「今(授業中)は・・・おそ〜い。」なんて笑い合ったことを思い出します。さて、皆さんにとって4月から今日(7月20日)までの心の時間は、速かったですか?遅かったですか?

◆わたしが好きになったことは・・・

兼山小のキーワードの1つに「好きをふやそう」があります。始業式の「どうしたら“好き”になれるか?“好き”を増やせるか?それを考え、実行する1年にしてほしいと願っています。」という投げかけに答えるべく、子どもたちが校長室を訪ねてくれました。その様子は、7月12日の学校HPで紹介しています。嬉しそうに話す雰囲気伝わると思っています。ここでは、2年生3名の「“好きになったこと”と“どうして好きになったか”」を紹介します。

「図工が好きになりました。自分で考えて描いたり作ったりすることが楽しいからです。」

「好きな人ができました。今年初めてファミリー(縦割り活動グループ)で一緒になりました。優しく話しかけてくれるからです。」

「私が好きになった教科は体育です。今までできなかった技が、練習したらできるようになったからです。」

この時、校長室には子どもたちが18人集まっていました。他学年もいる中で、子どもたちは、すらすら滑らかに話す、というよりも、じっくり言葉を選んで、自分の気持ちを伝えていました。周りは、友だちの言葉を聴き取ろうと静かに耳を傾けています。私にとって至福の時でした。子どもたちの言葉から、知的好奇心、かかわろうとする主体性、あきらめない心を感じました。ここで子どもたちの言葉に解説を加えると、私の場合、話が長くなり説教っぽくなることは自己分析できています。自分として最大の傾聴を心がけ、それでも一言だけ、「大事なことに気がついたね。今の気持ちを大切にしていけば、もっともっと“好き”が増えるよ。楽しみだね。」と話しました。

◆夏休み明けには・・・

保護者様、地域の方々の本校教育活動へのご理解ご協力、たくさんの応援の声、ありがとうございました。39日間の夏休みが始まります。“知りたい”“やってみたい”ことに挑戦し、“できた”“うれしい”“楽しい”思いを経験することを通して、何かしらの自信を纏った61名の爽やかな笑顔に出会えることを期待しています。“好き”が増える夏休み!

